

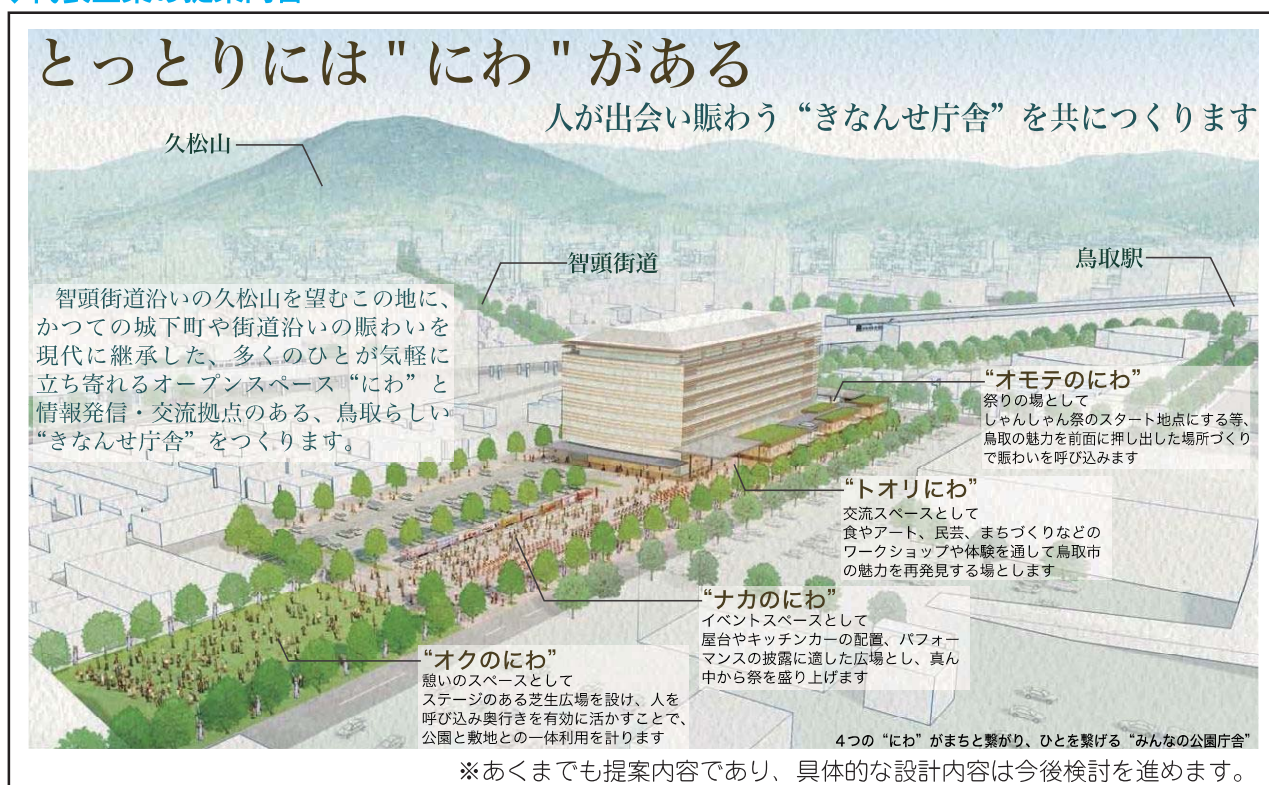
# 新本庁舎の設計を進めています！

**問い合わせ先** 本庁舎庁舎整備局 ☎ 0857-20-3012 📠 0857-20-3029 ✉ choshaseibi@city.tottori.lg.jp

昨年 12 月、公募型プロポーザルで選定した代表企業と市内企業により結成された設計共同体と設計業務の契約を交わしました。

新本庁舎の建設は、本市が中核市となり、将来にわたって山陰東部圏域が一体的に発展を続ける礎となる取り組みです。華美とせず、質実な中にも機能的で、鳥取市のシンボルとして市民に親しまれる庁舎となるよう、引き続き、市民のみなさんと一緒になって事業を進めていきます。

## ◆代表企業の提案内容



## (公募型プロポーザル審査講評：鳥取市新庁舎建設委員会)

市民の拠点となる鳥取らしい庁舎として、4つのにわ（オモテのにわ：お祭り広場、トオりにわ：市民交流ゾーン、ナカのにわ：イベント広場（兼駐車場）、オクのにわ：芝生広場（幸町棒鼻公園））による街のにぎわいの創出を提案し、委員から高い評価を得ました。また、防災拠点としての可変性や時代の変化に柔軟に対応するフレキシビリティの高い庁舎などについても具体的で実現性が高く、全体として優れた提案であると評価されました。

## ◆設計者

久米・白兎・塚田・木下特定業務設計共同体  
 （構成員）株式会社 久米設計 大阪支社【代表企業】  
 株式会社 白兎設計事務所  
 有限会社 塚田隆建築研究所  
 有限会社 木下建築研究所



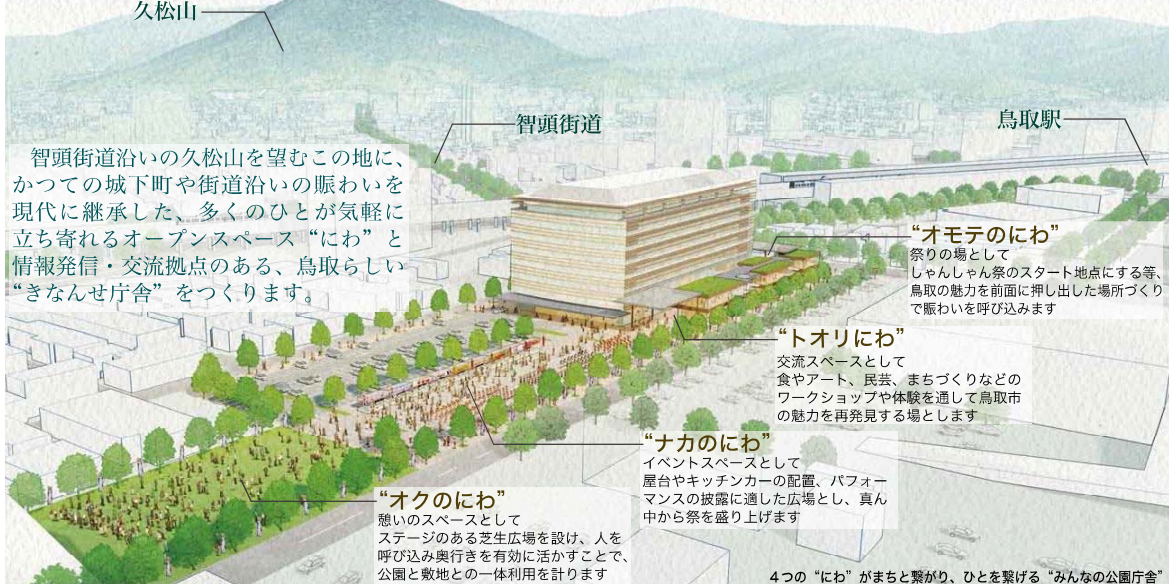
12月9日設計業務の  
契約を交わしました

## ◆今後のスケジュール

|           | 平成 27 年 12 月～ | 平成 28 年度 | 平成 29 年度     | 平成 30 年度                     | 平成 31 年度 |
|-----------|---------------|----------|--------------|------------------------------|----------|
| 基本設計・実施設計 |               |          | 基本設計<br>実施設計 | 平成 28 年 7 月末<br>平成 29 年 7 月末 | まで<br>まで |
| 施 工 者 選 定 |               |          |              |                              |          |
| 建 設 工 事   |               |          |              |                              | 完成       |

# とっとりには"にわ"がある

## 人が出会い賑わう“きなんせ庁舎”を共につくります



### 04 鳥取らしい“きなんせ庁舎”

・庁舎は鳥取らしい新たな景観を創出し、鳥取しゃんしゃん祭など“ハレ”の舞台としても映える表情とし、智頭街道に面して“オモテのにわ”とともに“大きな傘”のような庇が市民を迎えるつくりとします。



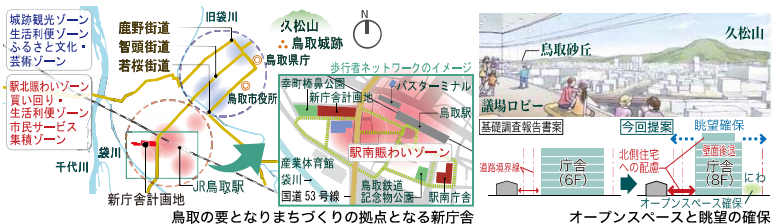
### (A) 市民の拠点となる鳥取らしい庁舎

#### 4つの“にわ”がまちと繋がり、ひとを繋げる“みんなの公園庁舎”

市庁舎としての機能を集約し、将来の機能整理にも対応するフレキシブルなスペースとしてシンプル・機能的な形で確保した上で、真に“市民の拠点”となる交流施設やオープンスペースの整備を行います。

#### 01 まちづくりの発信拠点 02 気軽に立ち寄れる公園庁舎

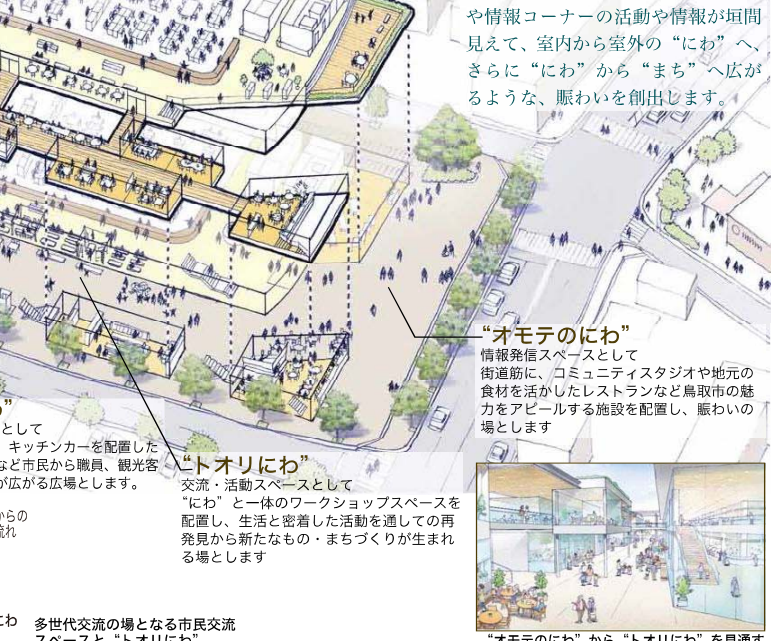
- ・鳥取城跡へ至る街道に面し、駅に程近い交通の便の良い敷地に、市政や生活、観光などの情報発信・交流スペースをまちに面して配置し、情報や活動が垣間見え、まちに広がってゆくような、まちづくりの拠点となる庁舎を創造します。
- ・庁舎の足元にできる限りオープンスペースを確保し、智頭街道（国道53号）から奥へと導かれるような空間づくりをして、多くの人が公園を散歩するように気軽に庁舎を訪れ、眺望も楽しむことができる計画とします。



#### 03 人と人をつなぐ4つのにわ（オープンスペース）

- ・街道筋から、西側に連なる4つの“にわ”が、市民や観光客を導き入れ、人と人、まちと庁舎を繋ぎます。
- ・4つの“にわ”が、祭りや日常それぞれに多様な活動の場となることで、人を惹きつけ交流を促します。

#### “にわ”に面する市民交流スペースや情報コーナーの活動や情報が垣間見えて、室内から室外の“にわ”へ、さらに“にわ”から“まち”へ広がるような、賑わいを創出します。



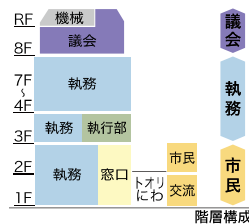
特定のテーマについての技術提案書 (A) 市民の拠点となる鳥取らしい庁舎 (B) 総合防災拠点として安全性が高い庁舎 (C) 全ての人にやさしく、利便性の高い庁舎 (D) 環境にやさしい庁舎 (E) 建設コストや維持管理コストの抑制に配慮した庁舎 (F) 時代の変化や職員の増減に柔軟に対応できる庁舎 2/3

### (C) 全ての人にやさしく、利便性の高い庁舎

#### 鳥取市のワンストップ拠点として 市民サービスと市民活動が心地よく同居する庁舎

##### 01 分かりやすい、使いやすい距離感

- ・「トオリにわ」を囲む形で、庁舎窓口と市民交流施設は別棟として分けて配置しながらも、全体として一望可能なわかりやすい構成とします。
- ・それにより「庁舎機能」、特に低層部に配置する窓口機能と「市民活動」が、混然一体とならず市民サービス・案内を円滑に行うことができます。
- ・庁舎自体もシンプルで明快な8階建の構成とし、職員の移動も最小限の庁舎を実現します。



“トオリにわ”に面した1.2階のロビーと市民窓口

##### 02 バリアフリーのワンストップ窓口

- ・窓口カウンターを見渡す入口付近に、市民ニーズに応え、適切に誘導する総合案内とワンストップ窓口を設けます。
- ・来庁者の目的に応じ、クイック窓口とステイ窓口を設けることで、待ち時間の短縮を図る窓口配置を提案します。
- ・関係部署を集約して連携を促す執務空間とし、手続が1箇所で行える窓口を充実させます。



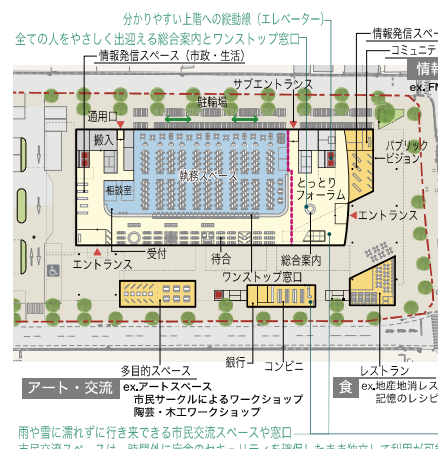
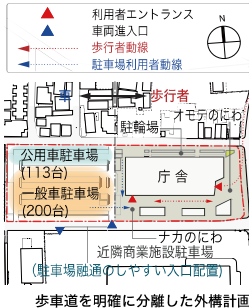
##### 03 居心地よい家具に囲まれたロビー

- ・キッズコーナーや授乳、ハートフルコーナーなどを充実させた待合ロビーとし、情報コーナーも兼ねたミニ本棚を始め、親子や高齢者に配慮した家具に囲まれた空間づくりを心掛けます。
- ・動線の要所に分かりやすいピクトグラム中心の大きなサインを設け、外国人居住者や観光客にも配慮した5カ国語併記のサイン計画とします。



##### 04 まちの発展と安全な動線に配慮した外構

- ・入口は駅からの歩行者を迎える東側の他、南北に歩道上空道を設けた上でどこからでも入りやすいよう各面に配し、周辺地域の発展も見越した開放的で立ち寄りやすい建物とします。
- ・敷地への車両進入口（西）と主な歩行者進入口（東）は明確に分け交錯のない計画とした上で、駐車場からの入り口も確保します。
- ・駐車場は、一般駐車場200台を確保した上で、エリアを区切る形で公用車駐車場を可能な限り確保し、近隣駐車場との融通や近隣の市所有地の利用も含めて検討、市庁舎に隣接したオープンスペースとしての有効活用を計ります。



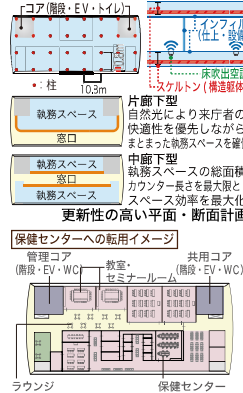
雨や雪に濡れずに行き来できる市民交流スペースや窓口  
市民交流スペースは、時間外に庁舎のセキュリティを確保したまま独立して利用が可能

##### (F) 時代の変化や職員の増減に柔軟に対応できる庁舎

#### フレキシビリティが高く 部局更新や用途転用に柔軟に対応する庁舎

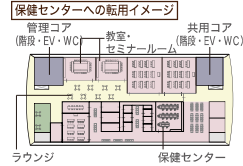
##### 05 執務室の更新性が高い平面計画

- ・執務スペースは、3.6mモジュールを採用した標準化を行い、フレキシブルな間仕切り設定と仕器移動なしの部局異動が可能な計画とします。
- ・フレキシブルなスケルトン・インフィル構造とし、スケルトンの長寿命化、インフィルの更新性により、経済的な建物・設備更新の仕組をつくります。
- ・床吹出空調システムを採用し、間仕切り・レイアウト変更時のダクト改修不要な計画とします。

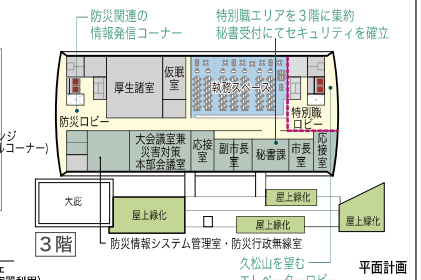
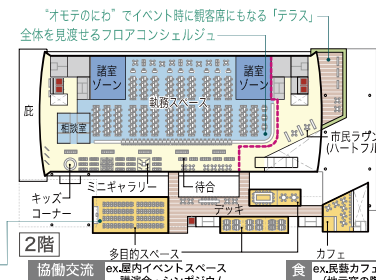
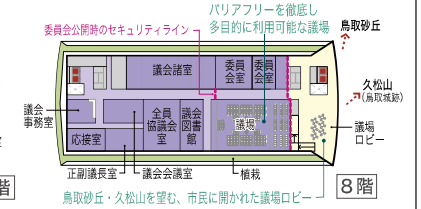
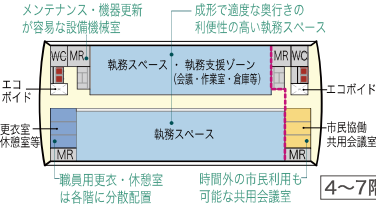
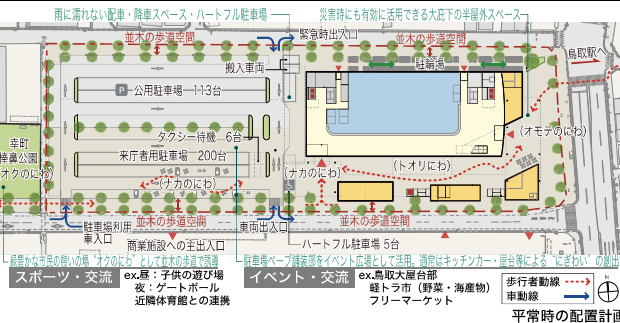


##### 06 保健・福祉施設などへ転用可能な仕様

- ・両端コアにより管理区画・動線設定を容易にして、余剰執務スペースのフロア貸や、市内に分散する機能の集約に容易に対応できる計画とします。
- ・保健・福祉施設など、諸室に給排水設備を必要とする用途への転用にも容易に対応できるよう、床下の配管スペースを十分に確保したスケルトン・インフィルの構造・設備計画とします。



用途転用した場合の平面レイアウト

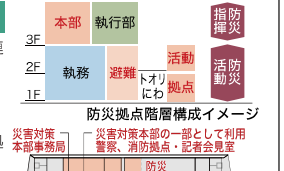


##### (B) 総合防災拠点としての安全性が高い庁舎

#### 有事の災害対策基地として 速やかに機動性を発揮する庁舎

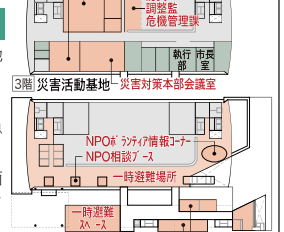
##### 07 災害対策拠点を低層階に集約配置

- ・市長・副市長などの特別職の諸室と災害対策関連諸室を3階に集約し、有事の際に被災情報を集約し、対策を検討、立案、指揮する「災害対策本部」と情報発信を行うための「記者会見室」に転換します。
- ・1.2階の多目的スペースは、NPOの災害活動拠点や一次避難スペースとして使用します。

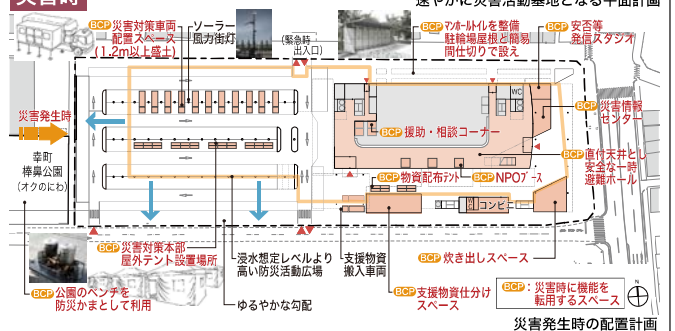


##### 08 敷地全体で災害活動を支援

- ・駐車場や半屋外・屋外の「にわ」も含めて敷地をかさ上げし、周辺浸水時にも災害活動支援が可能なスペースとします。
- ・駐車場は全て浅層地盤改良・耐重量舗装とし、緊急車両、大型車両の通行も可能な計画とします。
- ・1階多目的スペースやレストランは、搬入車両が横付けできる支援物資仕分けスペースや炊き出しスペースなどとしても有効に機能します。



##### 災害時



**138.6**kg-CO<sub>2</sub>/年·m<sup>3</sup>→**100.9**kg-CO<sub>2</sub>/年·m<sup>3</sup>